

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0048号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成20年5月3日

ONE WORLD ONE DREAM

FREE  TIBET

北京五輪、断固反対！

善光寺の英断、海を渡る

筆者は今月八日、護國青年會議が運営する掲示板に日本における北京五輪聖火リレーの出発地点に予定されていた善光寺に対して「同じ仏教徒が迫害を受け殺戮されている」というのに、聖火リレーのスタート地点としてその場を提供する神経が理解できない」と非難したことがあった。だが善光寺は筆者如きの小人の危惧など木っ端微塵に打ち砕いてくれた。

十八日、善光寺の若麻績信昭事務総長らは長野市役所を訪れ、聖火リレー出発地辞退を伝えた。記者会見で若麻績事務総長は「チベットで無差別な殺人が行われた。チベットの仏教者が立ち上がり、それに対する弾圧が行われ、憂慮していた」と支那による仏教者への弾圧が大きな理由であることを明らかにした。

筆者は、ゴルフ焼けた顔で経を読み、夜な夜な歓楽街に繰り出す坊さんを数名知っているが、やはり名刹の僧侶ともなると思慮深く、崇高な精神を持って宗教活動を行なっているようだ。いつときとはいえ善光寺を非難したことは、恥じ入るばかりである。まさに「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」である。

善光寺の決断を日本の親中メディアは「国宝の保全」を一義的理由に挙げ「中共によるチベット弾圧」にグラデーションをかけて報じた。しかし、世界は日本をしつかりと見ているし、日本が発信したメッセージを正確に捉えていた。



記者会見する若麻績寺務総長(左)

多少の紆余曲折があったとはいえ、勇氣ある決断が、同寺だけでなく日本への好感を持った記事として配信されている。一つの勇氣が、日本に対する認識に好影響を与えた端的な例であるが、何故か日本メディアは一行も一言も伝えていない。反日メディアがどのように抗おうが、今回の決断が世界各国に感動を与

えたことは紛れも無い真実でまさに「英断、海を渡る」と言えるのではないだろうか。

好意的な各国の反応

実際に世界のメディアは、善光寺の英断をどのように報じているのか検証してみた。

.....

善光寺が発した静かな怒りは世界中の仏教徒のみならず全宗教者が身を斬られる程の警告となった。CNN・米国

善光寺は一滴の血も流さず一つの石も用いず最大級のデモンストレーションを成し遂げた。NBC・米国

二千年の時を超えて、遠い東の国で仏陀の精神が受け継がれていたことを善光寺はこれ以上ない方法で示した。我々は、同じ価値観を共有する日本国民に強い尊敬と親しみを覚える。IDN・インド

物静かで政治的な主張をしないことで知られる日本が動いた。静かな抗議の声は深く強く世界の人々の心に届くに違いない。BBC・英国

聖火リレーのボイコットを表明したその日も善光寺は静かだった。取材を続ける私は全身に染み込む鐘樓の深い音色こそ、人為的に手渡されていくトーチとは異なり、遙かに聖なるものとして世界中に感動と安らぎを与えることだろう。AE通信・豪州

一面で紹介した以外にも、の矜持を世界に示した端的なフランスのLE・MONDE 例であり、この英断が次世代やドイツのRTLなども善光へと語り継がれていくことを寺の決断を絶賛している。ひ願ってやまない。

編集人・戸出蒼流

慶祝 昭和の日



平成二十年四月二十九日、二回目の「昭和の日」がやって来た。例年のように護国青年会議の一行は武蔵野御陵へと馳せ参じた。紺碧の空の下、ときおり林の中から鳥の音が聞こえてくる。まれに風につて遠くで走る車の音が聞こえてくるが辺りは静寂そのもので、玉砂利を踏む音が妙に大きく聞こえる。

進む一行の前に、緩やかな丘陵に抱かれた「武蔵野陵」が姿を現す。聳え立つ大鳥居と石段の奥に上り下りの方の御陵を拝し、一行は深く静かに頭(こころ)を垂れる。激動の昭和を国民と共に生き、国民に夢と希望を与え給った先帝陛下の御遺徳を偲ぶ一行の背中に初夏を思わせる陽射しが降り注ぐ。この厳かな御陵で眠られる先帝陛下は、迷走する日本の現状をどのようにお考えになられるのであろうか。常に国民第一とされてこられた先帝陛下は、国民の利益などまったく無視して私利私欲に走る政財界の現状をお嘆きになられているに相違ない。

先帝陛下の御遺徳を偲ぶ時、陛下が与え給った数多の恩恵により、今の日本が存在し、そこに我々が生まれ、育ち生きているのだということを忘れてはならない。「昭和の日」が、国民の一人一人が先帝陛下に感謝の念を捧げ、御遺徳を語り継ぐ日となることを願うばかりです。「日本は毅然とあれ」この願いを「昭和の日」に託す。

チベットに自由を！ ストップ・ザ北京

貧しくとも国民が力を合わせて平和に暮らしていた国に大戦後まもなく中華人民共和国となった「いわゆる支那」が凶暴な牙を剥いた。支那は突如として「チベットは支那固有の領土である」と根拠のない主張をし、東チベットの州都・アムドに人民解放軍を送り込み侵略を開始した。

悉く破棄された約束

近代的な装備を持たないチベット軍はなす術もなく、数日で東チベットは支那の魔手に落ちた。ダライラマ十四世は国連に提訴するが、議題として取り上げられることはなかった。翌年北京に呼び付けられたチベット代表団は「調印しなければ戦争だ」と脅迫され「解放条約」に調印させられた。条約には自治権やダライラマの地位保障、信仰の自由などが記されていたが、調印後即座にそれらの約束は悉く破棄された。約束を破ることを国とする支那にとつては朝飯前のことである。支那の横暴にチベット人は激しく抵抗するが、数十万人が殺され、中共軍の大量駐屯により食糧が大幅に不足し、多数の餓死者が出た。

インドに亡命政府樹立

一九五九年三月、支那の悪行に耐えかねた民衆の怒りがついに爆発した。ダライラマを監禁する目的で中共軍が観

劇に招待した。法王の身を案じた民衆はダライラマを守るうとするが、中共軍は民衆に砲撃を加え、約三千名を殺戮した。これ以上の悲劇を避けるため、ダライラマは厳冬のヒマラヤを越えてインドに亡命した。その後、支那はインドとの国境協定を一方的に破棄し、インドに侵攻した。支那の暴虐さを身をもって知ることになったネル首相は、インドに亡命政府を樹立することを容認し、一九五九年四月二十九日、ダライラマはインド北西部のダムラサラに亡命政府を樹立した。ダムラサラはチベットに良く似た環境の地で、この地に亡命政府を樹立できたことはネル首相の好意によるものだった。

百二十万人大虐殺

ラサでは中共軍の弾圧は激しさを増すばかりで一九六五年、チベットは完全に支那の支配下となってしまった。亡命政府を樹立したダライラマは民族の悲願である独立要求を現実的に放棄してまで支那政府に話し合いを訴えるが、支那はこれを無視し、略奪と殺戮を繰り返すだけであった。支那によるチベット人虐殺行為については、国際法律家委員会のレポートによると、一九五〇年から八十四年までの間にチベット人の五分の一、「北京五輪反対」の狼煙を上げ

手にかかり命を落している。その数は百二十万人を越え、現在進行形で略奪と虐殺は続いている。この悪逆無道国家が平和の祭典を開催しようとしている。支那の非道を具体的に紹介し、北京五輪に断固反対する意思表示とする。

北京五輪、断固反対！

武力によるチベット侵略を果たした支那共産党率いる人民解放軍は信じられない悪行のかぎりをつくしている。チベット人男性は断種を強制され、女性は夫や恋人の目の前で支那兵に強姦され妊娠させられた。ある村では数十人の村人が生きながらに焼き殺された。目の前で愛する子供が焼き殺されるのを見るに耐えず手で目を覆うと目に釘を打ち込まれ、耳を塞ぐとナイフで耳を切り取られた。十九年前のラサで行われた地獄絵図の首謀者は、血に植えた殺人鬼・胡錦濤である。貴方は目の前で妻や恋人が陵辱されるのを許せますか？我が子が焼き殺されるのを見て過できませんか？この事実を知れば、「日中友好のために北京五輪を成功させよう」などと寝言は言えない筈である。次世代の日本が世界から尊敬される国家となるために、日本政府は、世界に先駆けて「北京五輪反対」の狼煙を上げるべきである。

編集人